

ふるさと講座・歴史系

歴史の道を歩くシリーズ1 江戸時代のノツケ！

～野付通行屋・番屋跡遺跡を訪ねる～

道内でも珍しい江戸時代の遺跡を訪ねます。

また、野付半島の春の息吹も感じられることと思います。

●日 時 平成25年4月20日（土）

午前9時30分～午後1時

●場 所 野付半島（集合-野付半島ネイチャーセンター2階）

ネイチャーセンターでお話の後、遺跡に移動します。

●ガイド 別海町郷土資料館 石渡 一人

●定 員 20名

（電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を4月19日（金）までにご連絡ください。）

●その他 長靴を必ず着用下さい。草分け道や海岸を5kmほど歩きます。

ウォーキングにも最適です。



■野付通行屋と野付番屋

野付通行屋は幕府の蝦夷地直轄に伴う陸路・海路の整備を目的に寛政11年（1799）に野付半島の先端付近に設置されました。国後島や根室・厚岸・目梨方面の交通の拠点としての役割を持っていました。通行屋、下宿所、蔵などが建てられ支配人とその妻、アイヌの人足が詰めていたようです。安政年間頃（1854～1859）にこの通行屋の支配人をしていたのは、「加賀家文書」を書き残した加賀伝蔵で、松浦武四郎による記述など多くの文献史料に登場します。その中でも畑を開き作物を栽培したとの記録があり、現在でも野付通行屋跡遺跡には、畑の畝跡が広い範囲で確認することが出来ます。その他、建物跡やお墓も残り、当時の生活に思いをはせることが出来ます。さらに対岸の外海側には、漁番屋群があり、春の鯨漁の時期になると根室地方の各番屋から人々が集まり、居小屋、蔵などが50～60軒建ち並び出張番屋群が形成されました。満潮時には海水下ですが、食器や鉄釜などの多数の遺物が数散乱しており、道内でも、遺跡と文献史料が残る珍しい場所となっています。



1999年頃の野付通行屋跡遺跡



遺跡内に残る墓石

郷土学習出前講座をご活用ください！

当館スタッフが学校(学級レクも可能)や地域の各団体へ出向いて講座を実施します。現在、下記メニューにより、別海町の歴史や自然をわかりやすくお話しします。

家族ぐるみや少人数の場合は(10人程度)、郷土資料館でも実施できます。メニュー以外でも希望がありましたらお電話で問合せください。

1. 昔々のべつかい

先史時代のお話や各種体験活動を通して別海の古代を紹介します。

- ①お話し ②体験活動「土器作り」「勾玉作り」「火おこし」など
③遺跡見学

2. 幻の町キラクを探る一野付通行屋跡遺跡の発掘調査から

江戸時代の野付半島の様子を野付通行屋跡遺跡の発掘調査の成果を交え紹介します。

3. 加賀家文書とは？

加賀家文書に関する江戸時代末の別海町の様子を紹介します。

4. べつかい缶詰物語

開拓使により設置された別海缶詰工場に関する歴史を紹介します。

5. 西別川の献上鮭について

寛政12年(1800)から行われた西別川の献上鮭の製造について紹介します。

6. 昆虫採集・標本作り

町内に生息する蝶やトンボを採集し、同定、標本作りを指導します。

7. 化石にふれよう

野付半島沖で発見されたマンモスゾウ臼歯化石のお話と化石のレプリカ作りを指導します。

8. 巣箱づくり

巣箱作りを通して、野鳥に対する理解を深めます。

の利用例



お話の後、土器や石器などの遺物に触れてみます。



火起こし体験



勾玉づくり



完成した勾玉

別海町郷土研究会からのお知らせ！

当会では、郷土資料館と協同で風蓮湖周辺の動植物調査を実施しております。興味のある方はぜひ、ご参加ください。

- 実施日 毎月第2・4水曜日 午前9時から12時まで(悪天中止)
- 服装等 四季に応じた服装、長靴など
- 集合 別海町郷土資料館(移動の車は郷土資料館のものを使用します。)
- その他 今年度で7年目になりますが調査といっても堅苦しいものではなく、双眼鏡、野鳥・植物図鑑を片手に風景を眺めながら楽しく活動することをモットーとしています。

別海町郷土資料館だより No.165

発行日 平成25年4月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

もはや毎年恒例となった野付半島の遺跡めぐりを開催します。既に十勝管内からの申し込みがあり、驚いているところです。別海町にある大切な遺跡や歴史的な変遷をご紹介できることを楽しみにしています。(K.I)